

# げんし こだい 原始・古代

今回は、展示されている資料の中から2つにしぼってご説明いたします。

原始とは、<sup>きゅうせっき</sup>旧石器から<sup>こふんじだい</sup>古墳時代まで、古代は<sup>なら</sup>奈良・<sup>へいあんじだい</sup>平安時代をさします。この時代の主な展示資料には、<sup>ちのうちのせきしゅつどじょうもんどき</sup>地ノ内遺跡出土 縄文土器(縄文時代)や<sup>まるづかこふんしゅつどはにわ</sup>丸塚古墳出土埴輪(古墳時代)などがあります。これらの展示資料からは、<sup>てんじりょう</sup>当時の人々の生活や文化の様子をうかがうことができます

Q 縄文土器・弥生土器はどのように焼かれていた

のかな？

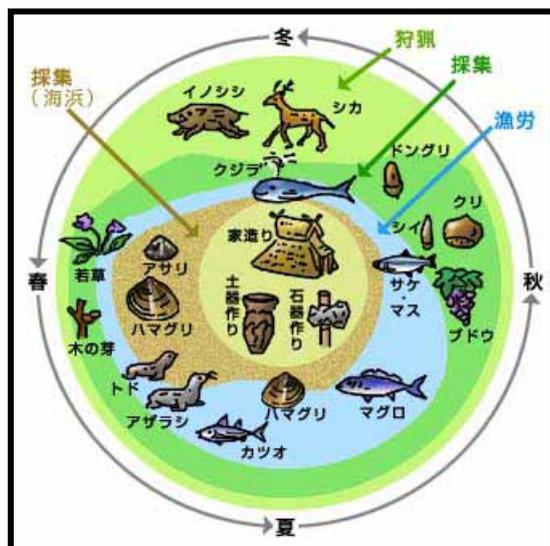
Q 古墳はどのようなものだったのだろうか？

<sup>ちのうちのせきしゅつどじょうもんどき</sup>地ノ内遺跡出土 縄文土器…縄文時代は、今から約12000年前から約2300年前までの1万年もの長いあいだ続きました。この時代に、日本では縄文土器がつく

られました。縄文土器と呼ばれる理由は、<sup>なわ</sup>縄をおしつけたようなあとがあることからです。この土器で食べ物を煮ることができるようになり、これまでのかりや漁中心の不安定な食生活(参考資料・縄文カレンダー)から食べ物を保存できる安定した食生活へと大きく変化しました。地ノ内遺跡は、現在の日立木小学校の北側にあり、平成14年の発掘調査により縄文時代から奈良時代にかけての竪穴式住居跡や土器などが発見されました。



<sup>ちのうちのせきしゅつどじょうもんどき</sup>地ノ内遺跡出土 縄文土器



縄文カレンダー  
(春夏秋冬の食生活がよくわかります)

まるづかこふんしゅつどうまがたはにわ  
丸塚古墳出土馬型埴輪・・・古墳時代は、西日本を  
中心として、大きなクニのまとまりができる時代  
です。古墳時代の前の弥生時代は、日本に米づく  
りが入り、大きなムラが多くでき、争いがはじま  
り、そのムラをまとめたクニができました。古墳  
に葬られた人は、古墳時代の豪族の人たちと、  
その一族の人たちです。埴輪とは、土で作った輪  
の意味です。4～7世紀ごろ、豪族のお墓である  
古墳の上または周りに立て並べた素焼きの土製品



まるづかこふんしゅつどうまがたはにわ  
丸塚古墳出土馬型埴輪(市指定文化財)

です。そして、丸塚古墳は、成田字船橋にあります。この古墳は、この地方を治めていた豪族を葬  
るため5世紀後半につくられたと考えられています。そして、その古墳に飾られた人物(6体)・馬型  
埴輪が発見され市の文化財に指定されています。